

「心臓 MRI 検査における拡散強調撮影法の有効性の検討」に関する研究

1. 研究の対象

2013 年 4 月 1 日～学校長承認日までに当院で心臓 MRI 検査を施行された方

2. 研究目的・方法

心臓 MRI 検査は、心臓の形態や壁運動を評価する上で最も正確な診断法とされています。また造影剤を用いた遅延造影 MRI 検査は、心筋の性状評価に非常に有用であり、基礎心疾患の診断に一般的に用いられています。しかしながら遅延造影 MRI 検査は、造影剤の静脈投与を必要とするため、造影剤アレルギーのある方や腎機能障害のある方に対しては評価することができないという問題があります。造影剤を必要としない、組織性状を評価するのに有用な撮影方法に拡散強調画像があります。すでに頭部領域では脳梗塞急性期の診断を行う上で一般的に用いられており、MRI 機器の進歩により心臓のような動く臓器においても短時間で拡散強調画像が撮影できるようになりました。当院では 2014 年より心臓 MRI 検査時に拡散強調画像を行っています。過去の研究では心筋梗塞や一部の心筋疾患において拡散強調画像の有用性が報告されていますが、他の心疾患において有用性は確立していません。本研究では、これまでに撮像された心臓拡散強調画像を用いて、様々な心疾患における診断有用性や予後との関連を調査することを目的としています。本研究により拡散強調画像の有用性が証明できれば、遅延造影 MRI 検査が施行できない方においても、非造影心臓 MRI 検査における心疾患の診断的価値を高めることが期待されます。

研究の方法は、2013 年 4 月 1 日～学校長承認日までに当院で心臓 MRI 検査を施行された方の診療記録を参照し、心臓 MRI 拡散強調画像の心筋症診断における有用性を検証する後ろ向き研究です。当院に継続通院されている方では、心臓 MRI 撮影後 5 年間の臨床転帰を用いて、拡散強調画像所見と予後との関連も評価いたします。研究期間は学校長承認後～2026 年 3 月です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病歴、病名、臨床検査、臨床転帰などの診療情報を研究対象として用います。新たに血液などの試料を採取することはありません。研究中は、患者さんのデータ、画像をすべて匿名化した上で個人を特定できない情報として使用します。また、学会発表や論文執筆の際にも個人情報の保護には最大限配慮いたします。

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究機関への情報の提供はありません。

5. 研究組織

主任研究者 集中治療部 助教 東谷卓美
分担研究者 循環器内科 教授 足立健
循環器内科 講師 長友祐司
集中治療部 講師 眞崎暢之
循環器内科 講師 難波貴之
循環器内科 助教 安田理紗子
循環器内科 研究科 鏡和樹
循環器内科 研究科 弓田悠介
循環器内科 研究科 岩下碧

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校循環器内科 東谷卓美（研究責任者、研究代表者）

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

（電話）04-2996-[52001511](tel:04-2996-52001511)